

日本ユニシス株式会社

2008年3月期 決算説明会(2008年5月14日開催)

主な質疑応答

内容につきましてはご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正をしております。

【業績見通しについて】

Q: 足元の引合い状況はどうか。また、2009年3月期を通じた見通しはどうか。

A: 足元の引合い状況は強く、総じて今後も堅調に推移すると考える。

Q: 2009年3月期におけるオープン系ハードウェア・ソフトウェアが前期比増収となる背景は何か。

A: ソフトウェアは2008年3月期の落込みが一過性と考えられ、正常状態に戻していく見込みである。ハードウェアはサーバの引合いが多く、2008年3月期の落ち込みが修復される形になるものの、低価格化の流れもあるため伸びは限定的となる見込みである。

Q: 2009年3月期におけるシステムサービスの売上総利益が前期比増益となる背景は何か。また、手応えはどうか。

A: コストオーバーランの金額減少のみならず、システムサービス案件全てにおける採算性向上に取り組んでいる。サービス品質の向上を目指した体制強化も採算性向上に効いており、見込み達成は可能であると考ええる。

Q: アウトソーシングの売上総利益が、2008年3月期、2009年3月期と続けて前期比減益となる背景は何か。

A: 過去から継続していた大型のアウトソーシング契約が2008年3月期に終了となった影響が大きい。

Q: S-BITS関連ビジネスの状況はどうか。

A: 外部環境の変化を背景に、金融機関の判断時期がやや後ずれしている感はあるが、概ね順調に推移している。2009年3月期中に新たに1行稼働予定であるが、初期投資の償却負担が先行しており、アウトソーシングにおける利益貢献が本格的に表面化してくるのは2010年3月期以降となる見込みである。

Q: 2009年3月期におけるコストオーバーランについて、どの程度の規模を見込んでいるのか。

A: 前期比30億円減の20億円を見込んでいる。

Q: 2009年3月期のキャッシュフローと有利子負債の見通しはどうか。

A:フリーキャッシュフローはプラス100億円以上を見込んでいる。有利子負債もこれに対応して100億円以上減少する見込み。状況によっては新規投資の可能性もあるものの、現状のスタンスは有利子負債削減の方向である。

【事業戦略について】

Q:日本ユニシスグループにおけるネットマークスの位置付けに変化はあるのか。

A:株式保有割合や上場維持といった観点では現状維持の方針であるが、環境・状況を踏まえたうえで柔軟に対応していく予定である。ネットワーク分野(特にユニファイドコミュニケーション)においてはユニアデックスにない強みも持っているので、ICT事業を進めていくうえでの重要なパートナーであるという位置付けは変わっていない。

Q:ネットマークス連携によるコストシナジーはどの程度を見込んでいるのか。

A:保守業務のグループ内対応と事務所統合によるファシリティコストの削減などにより、2009年3月期は8億円程度のコスト削減が見込まれるものの、一時的な移転費用もかかることから、4億円弱、2010年3月期は13億円程度のシナジーを見込んでいる。

Q:インフォシス・テクノロジーとの提携計画はどの程度具体化しているのか。

A:タスクを立ち上げ検討を開始しており、具体的な協業案件・内容についてまさに協議をしているところである。

以上

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。